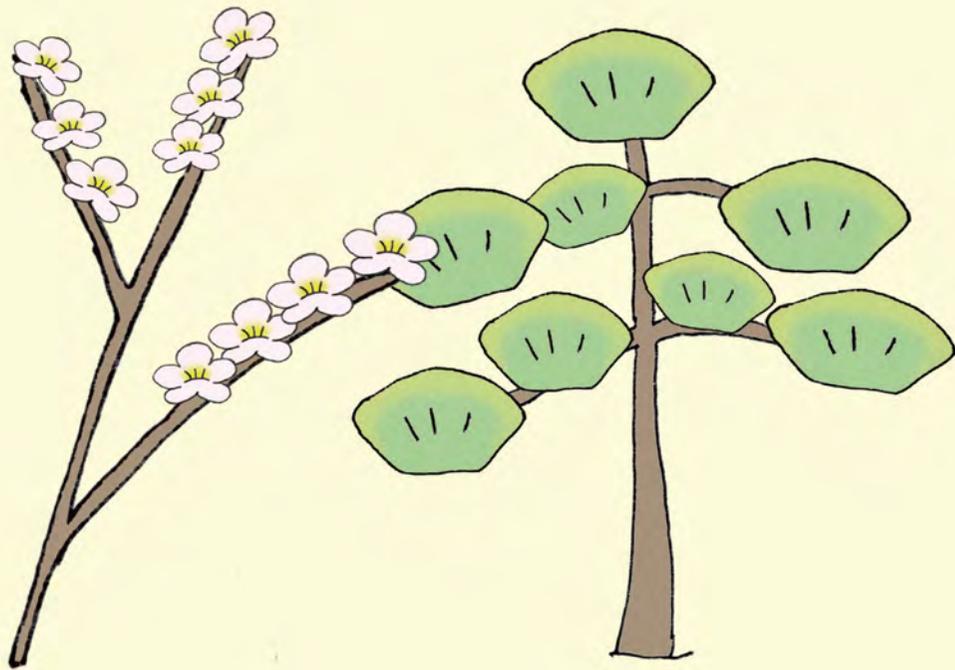


梅と松



大切な「まつごころ」

出口なお開祖は、「良の金神の御用聴いて貰うのは、一筋で、松心でない」と、今度の差し添えの種には成らんぞよ」と述べるなど、「松心」ということにはたびたび触れています。神さまに対して、常に変わることのない誠の心「松心」でいるということは、とても大切なことです。

情報が氾濫する今日、私たちはいろいろなことに一喜一憂したり、惑わされたり、悩んだりします。このような中で「松心」でいるために大切なのは、変わらない神さまに向かう純粋な「ごころ」ではないでしょうか。

この、「まつごころ」という言葉は、大本の季刊紙「ピノコーロ」の名前の由来になっています。また、大本の青年組織「大本青年部」の機関誌名にも使われています。



「ピノコーロ」(Vol.1~Vol.24)

「ピノコーロ」は、世界共通語エスペラントのピーノ[松]とコーロ[心]を組み合わせた造語。毎号、心温まるインタビュー記事や、身近に役立つ情報が満載です。

梅と松。この二つの樹木は、大本にとって大変ゆかりのあるシンボリック的存在です。今回は、梅と松が大本の中でどのような意味を持つのか、お伝えしましょう。



みろく博士

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>



梅で開いて、松で治める



出口なお大本開祖

「三千世界一同に開く梅の花、良の金神の世になりたぞよ。梅で開いて松で治める神国の世になりたぞよ」

出口なお大本開祖が、明治二十五年に神がかりした際の最初のこの言葉に、「梅」と「松」が示されています。

梅の花は、冬の雪霜をしのいで他の花々に先駆けて開き、春の到来をいち早く告げます。そして、松は一年を通じ変わることのない常緑樹です。

大本では国祖・国常立尊が、「良の金神」の名で開祖に神がかりするまで、長い間、世に落ちて苦勞艱難を耐え忍んでいたと示されています。

「梅で開く」とは、寒気に耐え、香りゆかしい花を咲かせ、良き実を結ぶ梅にたとえての言葉です。「松で治める」とは、永久に色あせぬ松の緑のように変わらぬ神への真心を表したものです。

梅と松で、苦勞によって結ばれた実を変わらぬまつごころで守り続けていくという大本信仰のあり方を端的に表しています。

二大聖地を象徴

大本には、宣教の中心地である天恩郷（京都府亀岡市）と祭祀の中心地である梅松苑（京都府綾部市）の二つの聖地がありますが、「梅」は、天恩郷を、「松」は、梅松苑を象徴します。（次頁下段参照）
また、祭祀の中心地である聖地・梅松苑の名前は、この「梅と松」に由来しています。



祭祀の中心地・梅松苑（京都府綾部市）

梅干しと松灰

大本の神苑には、たくさんの梅と松の木が植えられています。
苑内で採れる梅は、梅干しにして大本本部の食堂で供されている他、お正月には「福梅」として下付されています。



また、綾部・梅松苑の本宮山（別名・鶴山。禁足地）の松葉は灰にされ、松灰（No. 11参照）として下付されています。



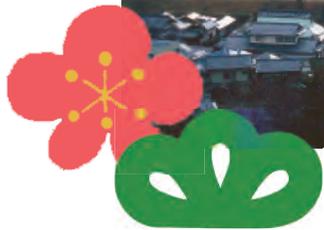
綾部市のシンボル

大本発祥の地である綾部市は、昭和四十九年十一月三日、市の花を「梅」、木を「松」と制定しました。

綾部市内の山野にはたくさんの梅が香り、松が茂っており、市民の意思により制定されました。



京都府綾部市



豆知識

竹はどうか？

一般的には、松竹梅（しょうちくばい）といって、松・竹・梅は慶事・吉祥のシンボルとされています。梅と松は、大本にとって特別な意味を持っています。果たして竹はどうでしょうか。
出口王仁三郎師は「竹は武を意味する。武器はもと竹でつくった、弓がそれであり、竹槍がそれである」としています。



梅と松について

大本の教祖・出口王仁三郎師は、『（出口なお開祖の）神諭に梅の局と松の局の御脇立ということがある。』

松の局とは（略）地の高天原、龍宮館の松の大本の教壇（※綾部・梅松苑）であり、梅の局とは皇道宣伝発揚の教壇のある地場（※亀岡・天恩郷）の名称である。（略）

昔から鶴は千年、亀は万年と祝い来る。この亀の名に負う亀山の万寿園（※現在の天恩郷のこと）に審判庭なり、修行場を設くるは、神界所定の真事業である。（略）
次に松は祭政一致の標徴で、天下統一の神意である。（略）

故に松の大本は、万世一系、天壤無窮の皇運を扶翼し奉る、忠良無比の神民の集まる、神聖なる霊地である。しかして神界と現界との真釣りの中心点であります』と述べています。